

「連合2019平和行動in根室」派遣団報告

不法占拠から74年、元島民は高齢化、「生きているうちに、島に戻りたい」 ～平和ノサップ集會に、全国から1000名が参加～



「連合2019平和ノサップ集會」の様子

翌日の9月8日には、納沙布岬で、全国の仲間が駆けより約1,000名が参加し、開催され、相原連合事務局長の挨拶をはじめ多くの来賓を迎え行われました。元島民の訴えで、「不法占拠から74回目の夏を迎え、元島民も平均84歳を超え、14,000人いたが、今は6,000人を割っています。日本領土返還要求運動の一環で、昨年より航空機による特別墓参が8月11日～12日なされましたが、あいにくの天気で、ご先祖様を見る事ができませんでした。生きているうちに、島に戻りたい」との切実たる願いに胸を打たれました。

日ロ両国においては、首脳会議を重ね、北方四島における共同経済活動で「観光」「ごみ処分」のパイロットプロジェクトが進められておりますが、一向に返還の兆しが見えてこないのが事実です。

根室駅に着いた時、北海道新聞の若い女性記者から取材を受けました。女性記者は茨城県出身で東京の大学の時に北方四島に興味があり、北海道新聞根室支社へ就職をしたことをお聞きしました。元島民の方々を始め運動の担い手が高齢化を迎え、次代を担う若い世代の関心を喚起することが重要と思われまます。より多くの若い世代の方々が北方領土を直に見て、元島民の話を聞き、北方領土に関する深く正しい理解をし、自ら感じて欲しいと思います。

集會終了後、釧路からの飛行機の欠航や、台風の影響で飛行機が危ぶまれましたが、無事予定通り帰ることができました。解散式では、成田団長より、「参加しないと解らないことも多々あり、参加者が職場に帰り、組合員へ伝え、平和運動に多くの組合員が関心を持っていただけるよう、今後も取り組むことを誓い」解散しました。天候不順によりご心配をおかけしましたが、連合福島組合員の代表として参加できたことに感謝申し上げ平和行動in根室の報告とします。

(記：県中地域連合事務局長 箭内 孝仁)

昨年は北海道豪雨により中止となり2年ぶりに9月6日(金)から9月9日(月)にかけ、2019連合平和行動の締めくくりとして開催され、連合福島より福島地区連合の成田議長を団長として、4名で参加してきました。

9月7日(土)初日は、北方四島学習会で、「ジョバンニの島」を鑑賞し、その後4部門のセミナーが開催され一人2部門に参加しました。参加者からは、当時の事実がわからなかったなど、参加し始めて分かったことなどが多数あり、貴重な話が聞けたなどの声がありました。



「平和集會」で挨拶する連合本部 相原事務局長



平和集會に参加した派遣団の皆さん



天候が良ければ、遠くに北方領土が望める「納沙布岬」



早期返還実現への強い願いが込められた「きぼうの鐘」の前にて